

科目名 (英)	医療福祉論 (Medical Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	日本や諸外国における理学療法士のステータス、学習内容、技術・知識、社会情勢の違いを学ぶことで、理学療法士に必要な視野を広げる。 健康分野における世界情勢に合わせ、グループワークによる知識の共有や調査発表を実施する。						
到達目標	日本や世界で実施されている最先端の理学療法技術や研究、トレーニングに触れ、今後の学習へ活かすことを目指す						
評価方法 (基準)	発表プレゼン 50% レポート 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	導入オリエンテーションにて グループワークの進め方を確認する	講義内容の復習
2		講義	理学療法士のステータス、必要な知見を理解	講義内容の復習
3		講義	現在の医療や健康分野における知見を理解す	講義内容の復習
4		講義	日本や諸外国における社会情勢を確認する	講義内容の復習
5		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する①	講義内容の復習
6		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する②	講義内容の復習
7		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する③	講義内容の復習
8		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する④	講義内容の復習
9		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する⑤	講義内容の復習
10		講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもつ たテーマを調査する⑥	講義内容の復習
11		講義	調査したテーマを資料にまとめる①	講義内容の復習
12		講義	調査したテーマを資料にまとめる②	講義内容の復習
13		講義	調査したテーマを資料にまとめる③	講義内容の復習
14		講義	調査内容の発表プレゼン	講義内容の復習
		本試験	調査内容の発表プレゼン、レポート提出	
15		講義	総括	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと	
【使用教科書・教材・参考書】			随時、資料を配布	

科目名 (英)	統計学 (Statistics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜3限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	この授業は、理学療法士として必要な統計学の知識を学修するためのものです。他に関連する科目として、医学概論における疫学分野と関係します。受講生に対する要望として、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしいと願っております。						
到達目標	①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。						
評価方法 (基準)	レポート課題70%、出席数30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的な統計処理について説明できる。 ①	授業内容の復習
2		講義	基本的な統計処理について説明できる。 ②	授業内容の復習
3		講義	基本的な統計処理について説明できる。 ③	授業内容の復習
4		講義	F検定について説明できる。	授業内容の復習
5		講義	t検定について説明できる。	授業内容の復習
6		講義	ウェルチ検定について説明できる。	授業内容の復習
7		講義	対応のあるt検定について説明できる。	授業内容の復習
8		講義	ウィルコクソン順位和検定について説明できる。	授業内容の復習
9		講義	ウィルコクソン符号付順位和検定について説明できる。	授業内容の復習
10		講義	適合度検定について説明できる。	授業内容の復習
11		講義	独立性の検定について説明できる。	授業内容の復習
12		講義	相関係数について説明できる。	授業内容の復習
13		講義	順位相関について説明できる。	授業内容の復習
14		講義	今までの講義のまとめ(課題の解説)	授業内容の復習
15		講義	まとめ(国家試験対策)	授業内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			リハビリテーション統計学(中山書店)	

科目名 (英)	運動学実習 (Practice in Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜1,2限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。 身体運動を観察して記録を行い、測定したデータをもとにレポートにまとめる作業を通じて、適切な表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学的知識について、実習を通して体験ができる。 ・運動学的用語を理解し、説明に用いることができる。 ・日常動作を現象として捉え、特徴的な運動パターンについて、観察結果を記録・説明ができる。 						
評価方法 (基準)	・筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション 解剖学的指標・身体計測点について理解でき	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
2		演習	生態観察(体表区分・解剖学的指標)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
3		演習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
4		演習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
5		演習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
6		演習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
7		演習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
8		演習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
9		演習	計測(関節運動:関節弛緩性)	関節構造と動きの特徴を復習する。
10		演習	計測(関節運動:関節副運動)	関節構造と動きの特徴を復習する。
11		演習	計測(関節運動:関節不安定性)	関節構造と動きの特徴を復習する。
12		演習	計測(関節運動:最終域感)	関節構造と動きの特徴を復習する。
13		演習	姿勢観察(座位)	肢位の名称と特徴を復習する。
14		演習	姿勢観察(立位)	肢位の名称と特徴を復習する。
15		演習	動作分析(起居動作)	動作のパターンを復習する。
16		演習	動作分析(歩行)	動作のパターンを復習する。
17		講義・演習	生態力学基礎(運動パターンの理解と線画練習)	線画の基本について理解する。
18		講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(関節モデル)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
19		講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(起居動作)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
20		講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(起居動作)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
21		講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(歩行)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
22		講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(歩行)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
		本試験		
23		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。	
【使用教科書・教材・参考書】			基礎運動学 第6版(医歯薬出版株式会社) 筋骨格系のキネオロジー(医歯薬出版株式会社) 観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社)	

科目名 (英)	障害論 (Disability)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜3限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	①リハビリテーション医学における障害について、専門職として必要な要素(用語)や基礎概念を理解する。 ②障害構造の理解に必要な『障害モデル(WHO)』についての課題を実施する。 ③障害に関する社会的トピックについて、グループワークでの意見交換や発表を実施する。						
到達目標	基礎的な社会福祉や障害、広義でのノーマライゼーションを説明できる。						
評価方法 (基準)	・プレゼンテーション:70% ・レポート課題:30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「障害」とは何か	【学習要点】(使用教科書を参考にする) 「障害」、「障がい」
2		講義	「障害」の受容	「障害受容」
3		講義	「障害」にかかわる専門家に求められること	「身体障害者福祉法」 「身体障害者手帳」など
4		講義	①リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	「WHO」、「ICIDH」、「ICF」
5		講義	②リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	意識障害、運動障害、感覚障害
6		講義	③リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	心機能障害、呼吸機能障害、排泄障害
7		講義	④リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	高次脳機能障害
8		講義	⑤リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	心理障害、発達障害、廃用症候群
9		講義	①ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーション
10		講義	②ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーション
11		講義	グループワーク① プレゼンテーション準備	プレゼン準備
12		講義	グループワーク② プレゼンテーション準備	プレゼン準備
13		講義	プレゼンテーション①	プレゼン準備、発表、振り返り
14		講義	プレゼンテーション②	プレゼン準備、発表、振り返り
		本試験		
15		講義	プレゼンテーション③	プレゼン準備、発表、振り返り
準備学習 時間外学習			用語の意味について、授業内で十分に理解ができなかった場合は、自宅で調べ学習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】			PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論,羊土社 リハビリテーション医学テキスト 改訂第5版,南江堂	

科目名 (英)	一般臨床医学 (General Clinical Medicine)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小川 恵子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜2限
教員の略歴	医師。現在、みちのく記念病院に勤務している。						
学習内容	将来的に医療に関わっていく者として、内科的診断と治療の実際を学び、内科学学習の準備とする。総論として症候学を学び、各論においては循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患について学習する。						
到達目標	内科的診断のプロセスを理解する。内科疾患の中で循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の基礎知識・検査・治療等を理解する。						
評価方法 (基準)	定期試験(筆記) 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	診断に必要な診察法について説明できる	指定教科書該当ページの予読
2		講義	診断に必要な検査について説明できる	指定教科書該当ページの予読
3		講義	主要な症候を生じる病態と関連疾患について	指定教科書該当ページの予読
4		講義	循環器疾患の概念及び病態生理について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
5		講義	循環器疾患の臨床所見・検査について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
6		講義	高血圧症・虚血性心疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
7		講義	弁膜症・心不全について述べるができる。	指定教科書該当ページの予読
8		講義	不整脈・血管疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
9		講義	呼吸器疾患の病態生理及び呼吸機能検査について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
10		講義	呼吸器感染症と閉塞性肺疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
11		講義	拘束性肺疾患と肺腫瘍について述べるができる。	指定教科書該当ページの予読
12		講義	消化器疾患の症候及び病態生理について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
13		講義	食道及び胃疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
14		講義	小腸・大腸疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
		本試験		
15		講義	試験解説	
準備学習 時間外学習			授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること	
【使用教科書・教材・参考書】			標準 理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院	

科目名 (英)	整形外科学 (Orthopedic Surgery)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有野敦司
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜1,2限
教員の略歴	医師。現在、東北大学病院に勤務している。						
学習内容	国家試験に合格し、理学療法士として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、理学療法における運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる理学療法士になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に付けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。						
到達目標	①本邦における運動器疾患に対する理学療法の重要性を理解する。 ②理学療法士国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。 ③実臨床で役立つ知識や考え方を身に付ける。 ④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。						
評価方法 (基準)	筆記試験: 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	整形外科総論を説明できる	講義プリントの復習
2		講義	各種検査治療法の概要を説明できる	講義プリントの復習
3		講義	骨折総論を説明できる	講義プリントの復習
4		講義	上肢骨折を述べるができる	講義プリントの復習
5		講義	体幹骨折を述べるができる	講義プリントの復習
6		講義	下肢骨折を述べるができる	講義プリントの復習
7		講義	骨軟部腫瘍①を述べるができる	講義プリントの復習
8		講義	骨軟部腫瘍②を述べるができる	講義プリントの復習
9		講義	神経筋疾患を述べるができる	講義プリントの復習
10		講義	感染症を述べるができる	講義プリントの復習
11		講義	変形性関節症を述べるができる	講義プリントの復習
12		講義	リウマチ類縁疾患を述べるができる	講義プリントの復習
13		講義	先天性・骨系統・代謝性疾患①を述べるができる	講義プリントの復習
14		講義	先天性・骨系統・代謝性疾患②を述べるができる	講義プリントの復習
15		講義	先天性・骨系統・代謝性疾患③を述べるができる	講義プリントの復習
16		講義	先天性・骨系統・代謝性疾患④を述べるができる	講義プリントの復習
		中間試験		
17		講義	試験解説	
18		講義	脊髄損傷を説明できる	講義プリントの復習
19		講義	頸椎・頸髄部位を説明できる	講義プリントの復習
20		講義	胸腰椎部位を説明できる	講義プリントの復習
21		講義	末梢神経を説明できる	講義プリントの復習
22		講義	肩関節疾患を説明できる	講義プリントの復習
23		講義	肘関節疾患を説明できる	講義プリントの復習
24		講義	手関節疾患を述べるができる	講義プリントの復習
25		講義	股関節疾患を述べるができる	講義プリントの復習
26		講義	膝関節疾患を述べるができる	講義プリントの復習
27		講義	足関節・足部疾患を述べるができる	講義プリントの復習
28		講義	骨端症を述べるができる	講義プリントの復習
		期末試験		
29		講義	試験解説	
30		講義	全体総括	
準備学習 時間外学習			毎回配布される講義資料と教科書対応ページの復習が必要	
【使用教科書・教材・参考書】			標準整形外科学 第15版(医学書院)	

科目名 (英)	神経内科学 (Neurology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部 貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 水曜4限
教員の略歴	医師。東海大学医学部の部長を担っている。						
学習内容	理学療法士に必要な神経内科学について実際の症例等を交えながら教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、神経の特徴および疾患について理解する。同時に、神経内科学を理解することで理学療法に繋げることを目標とする。						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	神経内科を理解するために必要な基礎知識について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
2		講義	神経系の構造と機能について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
3		講義	神経学的診断の意義について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
4		講義	神経学的診断の実際について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
5		講義	病歴と障害歴の聴取方法について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
6		講義	神経学的診察の手順について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
7		講義	意識障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
8		講義	神経症候学の基礎について理解する①頭痛やめまいなど	事前配布資料を読んでおくこと
9		講義	神経症候学の基礎について理解する②感覚障害など	事前配布資料を読んでおくこと
10		講義	神経症候学の基礎について理解する③失語症・失認など	事前配布資料を読んでおくこと
11		講義	画像診断の基礎について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
12		講義	高次機能障害について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
13		講義	高次機能障害について理解する②	事前配布資料を読んでおくこと
14		講義	構音・嚥下障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
15		講義	脳神経外科学の疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
16		講義	脳血管障害の診察・診断について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
17		講義	脳出血について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
18		講義	脳梗塞について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
19		講義	脳腫瘍について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
20		講義	認知症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
21		講義	脊髄疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
22		講義	錐体外路の変性疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
23		講義	パーキンソン病について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
24		講義	その他中枢神経系疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
25		講義	成人と小児に共通した神経疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
26		講義	てんかんについて理解する	事前配布資料を読んでおくこと
27		講義	多発性硬化症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
28		講義	神経系の感染症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
29		講義	その他神経内科学的疾患について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
30		講義	その他神経内科学的疾患について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
		本試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】		病気がみえる VOL.7 脳・神経 2版(メディックメディア)		

科目名 (英)	小児科学 (pediatrics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜4限
教員の略歴	医師。東海大学医学部の部長を担っている。						
学習内容	小児の身体的特徴および疾患について理学療法士に必要な知識を教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、小児の特徴および疾患について理解する。同時に、小児についてのリハビリテーションについて理解することを目標とする。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	成長と発達について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
2		講義	先天異常について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
3		講義	小児の消化器系疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
4		講義	小児の消化器系疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
5		講義	小児の呼吸器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
6		講義	小児の循環器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
7		講義	小児の感染症について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
8		講義	小児の内分泌代謝疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
9		講義	障害児について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
10		講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
11		講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
12		講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる①	事前配布プリントを読んでおくこと
13		講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる②	事前配布プリントを読んでおくこと
14		講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる③	事前配布プリントを読んでおくこと
15		講義	まとめ	事前配布プリントを読んでおくこと
		試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 (医学書院)	

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅲ (Evaluation of PT Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 3,4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	①理学療法評価学ⅠとⅡの内容を復習し知識の定着を図る。 ②基本的な理学療法評価を実践する。						
到達目標	①ROM・MMTの評価技術が正確にできる ②ADLテストや呼吸・循環機能検査の説明ができる ③片麻痺機能検査の説明ができる						
評価方法 (基準)	筆記試験50% 実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	痛みの評価、知覚検査を行う事ができる	講義内容の復習を行う
2		講義・演習	痛みの評価、知覚検査を行う事ができる	講義内容の復習を行う
3		講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	講義内容の復習を行う
4		講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	講義内容の復習を行う
5		講義・演習	筋緊張検査を実践できる	講義内容の復習を行う
6		講義・演習	ADL検査を実施できる	講義内容の復習を行う
7		講義・演習	協調性検査を実践できる	講義内容の復習を行う
8		講義・演習	整形外科検査を実施できる	講義内容の復習を行う
9		講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	講義内容の復習を行う
10		講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	講義内容の復習を行う
11		講義・演習	姿勢反射検査、バランス検査を実践できる	講義内容の復習を行う
12		講義・演習	姿勢反射検査、バランス検査を実践できる	講義内容の復習を行う
13		講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	講義内容の復習を行う
14		講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	講義内容の復習を行う
		本試験・実技試験		
15		講義・演習	まとめ	全ての講義内容の復習
準備学習 時間外学習			教科書の予習、および講義内容の復習。	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 第6版	

科目名 (英)	理学療法評価学実習 I (Physical therapy evaluation clinical practicum)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 月曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法評価学 I・II・III で学んだ知識をもとに、得られた評価結果に対する意味づけを考える事を目的とする。						
到達目標	①学生同士でお互いを検査測定し、得られた結果から統合と解釈、問題点の抽出までを行う事が出来る。 ②上記の内容をレジュメにまとめて発表する事が出来る。						
評価方法 (基準)	1) 総合実技試験50% 2) レジュメ発表50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	姿勢評価、ランドマーク触診	講義の復習を行う事
2		演習	姿勢評価、ランドマーク触診	講義の復習を行う事
3		演習	ROM-T 上肢	講義の復習を行う事
4		演習	ROM-T 上肢	講義の復習を行う事
5		演習	ROM-T 下肢	講義の復習を行う事
6		演習	ROM-T 下肢	講義の復習を行う事
7		演習	MMT 上肢	講義の復習を行う事
8		演習	MMT 上肢	講義の復習を行う事
9		演習	MMT 下肢	講義の復習を行う事
10		演習	MMT 下肢	講義の復習を行う事
11		演習	形態計測	講義の復習を行う事
12		演習	深部腱反射	講義の復習を行う事
13		演習	車いす操作	講義の復習を行う事
14		演習	車いす操作	講義の復習を行う事
15		演習	レジュメ作成について	講義の復習を行う事
16		演習	情報収集について	講義の復習を行う事
17		演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
18		演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
19		演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
20		演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
		試験	実技試験	
21		演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
22		演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
23		演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			ケースーに着替えておく事 授業の予習復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	運動療法学 I (Movement Therapy I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	丸屋 健
		授業 形態	講義・ 実技	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜1,2限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
授業の学習内容	理学療法介入において大きな柱として位置づけられている運動療法は、解剖学や生理学、運動学を基礎とし、理学療法士が得意とする領域である。各単元の前半では必要な生物医学側面と社会科学的側面の両面からみた必要な基礎知識を確認した上で、運動療法の基本手技を学んでいく。2年次後期に予定されている運動療法学実習への移行が円滑に行なわれるよう、講義内でも随時実技での体験をしていく。						
到達目標	①運動療法の歴史、基本的概念について学ぶ。 ②身体の構造と機能への理解を深め、運動療法構築への概念を学習する。 ③講義内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 ④講義内容に応じた基本的運動療法技術を健常者同士で一部体験する。						
評価方法と基準	・筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	【総論】 運動・運動療法の定義と特徴を理解できる。	講義の復習を行う事
2		講義	【総論】 運動療法の分類、適応と禁忌を理解できる。	講義の復習を行う事
3		講義	【筋機能と運動療法】 運動における筋の機能について理解できる。	講義の復習を行う事
4		講義	【筋機能と運動療法】 筋力・筋持久力低下に対する運動療法を理解できる。	講義の復習を行う事
5		講義	【関節可動性と運動療法】 運動における関節可動性について理解できる。	講義の復習を行う事
6		講義	【関節可動性と運動療法】 関節可動性障害に対する運動療法について理解できる。	講義の復習を行う事
7		講義	【バランス機能と運動療法】 姿勢・動作におけるバランス機能について理解できる。	講義の復習を行う事
8		講義	【バランス機能と運動療法】 バランス機能障害に対する運動療法について理解できる。	講義の復習を行う事
9		講義	【協調性機能と運動療法】 運動における協調性機能について理解できる。	講義の復習を行う事
10		講義	【協調性機能と運動療法】 協調性障害に対する運動療法について理解できる。	講義の復習を行う事
11		講義	【中枢神経機能と運動療法】 運動における中枢神経機能について理解できる。	講義の復習を行う事
12		講義	【中枢神経機能と運動療法】 中枢神経障害に対する運動療法について理解できる。	講義の復習を行う事
13		講義	【末梢神経機能と運動療法】 運動における末梢神経機能について理解できる。	講義の復習を行う事
14		講義	【末梢神経機能と運動療法】 末梢神経障害に対する運動療法について理解できる。	講義の復習を行う事
		筆記試験		講義の復習を行う事
15		講義	総括	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			・予習と復習:教材と配布資料を活用すること。 ・同学年に履修する運動療法学実習の基礎となる知識であり、運動実践における注意点を特によく理解するように努めること。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Crosslink理学療法テキスト 運動療法学				

科目名 (英)	運動療法学実習 I (Practice of therapeutic exercise)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	石島孝樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期 木曜3,4限
教員の略歴	理学療法士。急性期から生活期の臨床現場を経験し、現在は㈱ハートリアの代表を務める。						
学習内容	①近年、多様化する疾患に対して運動療法を実施する際、各疾患に関する知識の習得が不可欠である。 ②運動療法学実習では、解剖・生理・運動学の知識をもとに、評価・アプローチを実施する過程を理解する。 ③卒後、適切な運動療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、講義で疾患の基礎知識と病態を説明し、実技で評価とアプローチを指導す						
到達目標	①各疾患の基礎知識を理解する。 ②疾患の特性から、正確に身体状況を把握する。 ③疾患特性に留意した運動療法を実施することができる。						
評価方法 (基準)	1)定期テスト60%(筆記試験) 2)出席数40% 具体的な達成の目安:教科書を元に作成した定期テストで60点以上取ること。 * 疾患の特性とアプローチ法を理解したうえで運動療法を実施することができる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	痛みの種類と原因	講義の予習・復習を行う事
2		講義と実技	痛みに対する運動療法の実際(上肢)	講義の予習・復習を行う事
3		講義	各種疼痛に関する運動療法の理論	講義の予習・復習を行う事
4		講義と実技	痛みに対する運動療法の実際(下肢)	講義の予習・復習を行う事
5		講義	発達障害児の病態と評価	講義の予習・復習を行う事
6		講義と実技	発達障害児に対する各種運動療法	講義の予習・復習を行う事
7		講義	呼吸器疾患の病態と評価	講義の予習・復習を行う事
8		講義と実技	呼吸器疾患に対するアプローチ法①	講義の予習・復習を行う事
9		講義	呼吸器疾患の生理と疾患特性	講義の予習・復習を行う事
10		講義と実技	呼吸器疾患に対するアプローチ法②	講義の予習・復習を行う事
11		講義	循環器の機能と構造	講義の予習・復習を行う事
12		講義と実技	循環器疾患に関する各種評価法	講義の予習・復習を行う事
13		講義	循環器障害の病態と評価	講義の予習・復習を行う事
14		講義と実技	循環器疾患に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
15		講義	代謝機能の役割と特徴	講義の予習・復習を行う事
16		講義と実技	代謝障害を有する患者への介入法①	講義の予習・復習を行う事
17		講義	代謝機能の障害と疾患特性	講義の予習・復習を行う事
18		講義と実技	代謝障害を有する患者への介入法②	講義の予習・復習を行う事
19		講義	嚥下障害の病態と評価	講義の予習・復習を行う事
20		講義と実技	嚥下障害を有する患者への介入法	講義の予習・復習を行う事
21		講義	加齢に伴う身体機能の変化	講義の予習・復習を行う事
22		講義と実技	高齢者が有する疾患の特性と介入法	講義の予習・復習を行う事
		定期テスト		
23		講義	テストのフィードバック	
準備学習 時間外学習		教科書と参考資料をもとに予習と復習を行うこと。実技は生徒間で反復練習すること。		
【使用教科書・教材・参考書】		運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂		

科目名 (英)	運動療法学Ⅱ (Movement TherapyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 曜日・時限 金曜2限
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	運動は、肉眼で観察可能な運動器や神経系によるコントロールと、肉眼で観察不可能な呼吸・循環・代謝によるコントロールから成立する。解剖学・運動学・生理学で学んだ知識を、運動時における基本動作や呼吸・循環・代謝の変化と関連付け、根拠のある運動療法を行える事を目的とする。						
到達目標	①安静時・運動時の呼吸状態の変化について説明できる ②安静時・運動時の循環動態の変化について説明できる ③安静時・運動時の代謝の変化について説明できる ④基本動作の評価の基本と、基本動作障害に対する運動療法について説明できる						
評価方法 (基準)	筆記試験：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	運動における呼吸機能	講義の予習・復習を行う事
2		講義	呼吸障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
3		講義	運動における循環機能	講義の予習・復習を行う事
4		講義	循環障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
5		講義	運動における代謝機能	講義の予習・復習を行う事
6		講義	代謝機能障害における運動療法	講義の予習・復習を行う事
7		講義	運動における前庭機能	講義の予習・復習を行う事
8		講義	前庭機能障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
9		講義	加齢に伴う運動機能変化	講義の予習・復習を行う事
10		講義	加齢による運動機能障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
11		講義	背臥位・寝返り・起き上がり動作障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
12		講義	座位・立ち上がり動作障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
13		講義	立位・歩行障害に対する運動療法	講義の予習・復習を行う事
14		講義	運動学習と運動療法	講義の予習・復習を行う事
		本試験		
15		講義	試験解説	講義の予習・復習を行う事
準備学習 時間外学習			授業の予習・復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			Cross Link 理学療法学テキスト 運動療法学 メジカルビュー	

科目名 (英)	運動療法学実習Ⅱ (Practice of Movement Therapy2)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前期・後期 木曜日 3,4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	疾患別に病態と症状を理解し、運動療法の概略を理解することが必要である。 解剖学・生理学・運動学、運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、基本的な運動療法に加え疾患別の運動療法の概略を理解する。						
到達目標	運動療法の対象となる疾患について、病態と症状を理解し、文章表現できる。 対象となる疾患について、運動療法実施の主目的と注意点について説明できる。 対象となる疾患に対して、適切な運動療法を選定し実施できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験50% 実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実習	関節可動域制限の因子を理解できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
2		講義・実習	関節可動域制限因子に対して運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
3		講義・実習	骨折に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
4		講義・実習	骨折に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
5		講義・実習	靭帯・腱に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
6		講義・実習	靭帯・腱に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
7		講義・実習	関節疾患に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
8		講義・実習	関節疾患に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
9		講義・実習	脳血管障害に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
10		講義・実習	脳血管障害に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
11		講義・実習	パーキンソン病に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
12		講義・実習	パーキンソン病に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
13		講義・実習	神経難病に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
14		講義・実習	神経難病に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
15		講義・実習	神経難病に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
16		講義・実習	神経難病に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
17		講義・実習	脳外傷に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
18		講義・実習	脳外傷に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
19		講義・実習	脊椎疾患に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
20		講義・実習	脊椎疾患に対する運動療法を説明できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
21		講義・実習	脊椎疾患に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
22		講義・実習	脊椎疾患に対する運動療法を実践できる	プリント、参考書を使用し予習復習を行う
		本試験		
		実技試験		
23		講義・実習	試験の解説	試験の復習を行う
準備学習 時間外学習			周囲の人たちに授業内で実施した、運動療法を実施してみる。身体に触れる機会をもつこと。	
【使用教科書・教材・参考書】			運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 【電子書籍】運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹	

科目名 (英)	物理療法学 (Physical Agents)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 月曜3,4限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	理学療法士法及び作業療法士法の中で物理的刺激を加えることが理学療法の手段の一つとして記載されている。本授業は各物理療法の特徴や実施方法に加え物理療法が適応となる炎症や疼痛、関節可動域制限のメカニズムと物理刺激を加えた際の生理学的変化などについて学ぶ。						
到達目標	物理療法の種類が理解できる。物理療法が適応となることの多い炎症・疼痛・関節可動域制限等の症状において物理刺激を加えた際の生理学的変化が理解できる。各物理療法の特徴や実施手順、禁忌事項等を理解できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	物理療法の概要とリスク管理が説明できる	指定教科書の予読、課題作成
2		講義	物理療法が適応となる炎症について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
3		講義	物理療法が適応となる疼痛について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
4		講義	物理療法が適応となるROM制限について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
5		講義	温熱について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
6		講義	温熱療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
7		講義	電磁波について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
8		講義	超短波療法・極超短波療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
9		講義	光線療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
10		講義	超音波療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
11		講義	電気刺激について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
12		講義	電気刺激療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
13		講義	寒冷療法・水治療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
14		講義	牽引療法・圧迫療法・振動刺激療法を説明できる	指定教科書の予読、課題作成
		本試験		
15		講義	総復習・症例に対する物理療法の導入が説明できる	全範囲の復習を行う
準備学習 時間外学習			指定教科書の予読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】			使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社) 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テ	

科目名 (英)	物理療法学実習 (Practice of Physical Agents)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜3,4限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	物理療法学で学んだ知識を基に、それぞれの物理療法機器の取り扱い方法を学びリスク管理を行いながら実際に使用する。						
到達目標	適応・リスク管理を把握しながら物理療法の機器の使用を経験する						
評価方法 (基準)	試験(80%)、その他課題(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	物理療法の適応となる疾患を理解する①	指定教科書該当ページの予読
2		講義	物理療法の適応となる疾患を理解する②	指定教科書該当ページの予読
3		講義	物理療法の適応となる疾患を理解する③	指定教科書該当ページの予読
4		講義	物理刺激の人体への作用を理解する①	指定教科書該当ページの予読
5		講義	物理刺激の人体への作用を理解する②	指定教科書該当ページの予読
6		講義	物理刺激の人体への作用を理解する③	指定教科書該当ページの予読
7		講義	ホットパックの実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
8		講義	パラフィン浴の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
9		講義	寒冷療法(クリッカー)の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
10		講義	水治療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
11		講義	赤外線療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
12		講義	極超短波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
13		講義	超音波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14		講義	電気刺激療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15		講義	牽引療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
16		実習	ホットパックを実施できる	指定教科書該当ページの予読
17		実習	パラフィン浴を実施できる	指定教科書該当ページの予読
18		実習	寒冷療法(クリッカー)を実施できる	指定教科書該当ページの予読
19		実習	赤外線療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
20		実習	極超短波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
21		実習	超音波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
22		実習	電気刺激療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
		本試験		
23		実習	牽引療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			指定教科書の予読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】			使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社) 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テ	

科目名 (英)	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 火曜 3,4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	①日常生活活動についてその概念と成り立ちを理解し理学療法における位置づけを学ぶ。 ②日常生活活動学実習と共に日常生活活動の概要を学び全ての科目と関連があることを理解する。 ③日常生活活動がどのような構成になっているのかを理解し理学療法に取り組むモチベーションにして欲しい。 ④日常生活活動を普遍的に評価できるようになるため概念、定義、具体的評価方法を講義と演習で展開する。						
到達目標	①日常生活活動の定義と概念を説明できるようになる。 ②日常生活活動の各行為を分類し普遍的に評価できるようになる。 ③日常生活活動の各種の評価方法を述べ状況に応じて使用できるようになる。 ④日常生活活動とICFの関係を理解しICFの他の要素と関連づけて説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、口頭試問5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	日常生活活動の定義が述べられる	プリント学習
2		講義	日常生活活動の概念が説明できる	プリント学習
3		演習	食事行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
4		演習	排泄行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
5		演習	入浴行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
6		演習	整容行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
7		演習	生活関連行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
8		講義	日常生活活動の実際を概観する	ビデオ教材の視聴とレポート
9		講義	各種のADL評価方法を使用できる	プリント学習
10		講義	各種のADL評価方法を使用できる	プリント学習
11		講義	FIMの評価方法のマニュアルを説明できる	プリント学習
12		講義	FIMでのADLの評価ができる	プリント学習
13		講義	姿勢の種類を述べられる	論文抄読
14		実技	各種の姿勢を実施できる	実技練習
		定期試験	筆記試験	
15		講義	定期試験の解説	レポート作成(誤回答を再確認する)
準備学習 時間外学習			準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる。	
【使用教科書・教材・参考書】			日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)	

科目名 (英)	日常生活活動学実習 (Activities of daily living science training)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 火曜 曜日・時限 3,4限
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	演習を通じて日常生活動作の動作の特徴や介助方法などを学ぶ。						
到達目標	起居動作を介助で安全に実施できるようになる。 障害の特徴を押さえた動作を体験した上で、疾患別にADL指導のポイントにそって実施できるようになる。						
評価方法 (基準)	レポート100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実技	介助の基本原則を説明できる。	講義の復習を行う
2		実技	起居動作の一人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
3		実技	移乗動作の一人介助(車椅子上で姿勢を整えるまで)を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
4		実技	移乗動作の二人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
5		実技	三人介助でリフティングを実施できる。	講義の復習を行う
6		実技	食事介助を健常者で実施できる。	ゼリーとスプーン、飲み物とコップ、タオルを持参
7		講義・実技	身体変化における動作への影響を説明できる。	講義の復習を行う
8		実技	身体変化における動作への影響を健常者で調べることができる。	講義の復習を行う
9		講義・実技	RAの疾患特異性を理解し、関節保護・痛み・生活リズムのADL指導を説明できる。	RAについて調べる
10		実技	関節保護を意識したADL指導を実施できる。	講義の復習を行う
11		講義・実技	変形性股関節症の疾患の特異性を理解し、時期に応じた注意点を説明できる。	変形性股関節症・膝関節症について調べる
12		実技	股脱臼予防をした動作を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
13		講義・実技	切断の質量変化、義足の限界を理解し、拘縮予防や動き方の注意点を説明できる。	糖尿病からの切断について調べる
14		実技	義足での安全な動き方を指導できる。	講義の復習を行う
15		講義・実技	脊髄損傷の損傷レベルの違いによる可能な動きや動作を説明できる。	筋と感覚の髄節レベルについて調べる
16		実技	レベルごとの動きを実施できる。	講義の復習を行う
17		講義・実技	片麻痺の特徴を理解し、体性感覚の必要性を説明できる。	脳の部位とその機能について調べる
18		実技	片麻痺の安全性を重視したADLの仕方を実施できる。	講義の復習を行う
19		講義・実技	脳性麻痺タイプ別の特徴的な動きを説明できる。	講義の復習を行う
20		実技	発達における介入の仕方を説明できる。	基本動作の獲得時期について調べる
21		講義・実技	パーキンソンの特徴的な動きを理解し、転倒対策を説明できる。	パーキンソンの病態を調べる
22		実技	転倒対策を考慮した立位・歩行、立ち上がりを実施できる。	講義の復習を行う
23		講義・演習	FIMの評価を実践できる。問題点でのADLの位置付けを説明できる。	講義の復習を行う
準備学習 時間外学習			教科書を持参に読むこと	
【使用教科書・教材・参考書】			1-8回は介助法テキスト配布。9-23回は標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)、ADL実習テキスト配布。	

科目名 (英)	義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	基本的な義肢・装具の構造と機能、各疾患への適応について説明できる						
到達目標	①義肢・装具について理解する ②杖・車椅子の構造や評価点を理解する ③各疾患の知識、適応装具など理解する						
評価方法 (基準)	定期試験(筆記): 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	義肢学総論を理解する	講義の復習を行う
2		講義	下肢切断の理学療法評価	講義の復習を行う
3		講義	大腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
4		講義	膝義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
5		講義	下腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
6		講義	サイム義足・股義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
7		講義	足部部分義足の種類と適合判定 継手の種類と設定調整を理解する	講義の復習を行う
8		講義	装具学総論を理解する	講義の復習を行う
9		講義	脳卒中片麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
10		講義	脳卒中片麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
11		講義	対麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
12		講義	対麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
13		講義	整形外科的装具を理解する	講義の復習を行う
14		講義	末梢神経障害の装具を理解する	講義の復習を行う
		試験	筆記試験	
15		講義	解説	講義の復習を行う
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用	

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅰ(整形外科疾患)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	茂呂行哲
	(Orthopedic Disease)	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期 3,4限
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	整形外科疾患に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。「解剖学」「運動学」「整形外科学」で学んだことを踏まえ、運動器疾患に対する「評価」を中心としたアプローチを身につける。講義の半分ほどは実技形式となるため、PTとしての振る舞いを学ぶ。						
到達目標	整形外科疾患の病態、各疾患に対する理学療法の考え方、捉え方を理解し、適切な対応を実施することができる。 臨床における整形外科疾患に対するイメージを身につけることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験 ※状況に応じ実技試験も実施する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション	組織再生・修復についての復習
2		講義・演習	組織再生・修復の過程を理解できる。	組織再生・修復についての復習
3		講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
4		講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
5		講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
6		講義・演習	骨折と脱臼、変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
7		講義・演習	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
8		講義・演習	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
9		講義・演習	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
10		講義・演習	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
11		講義・演習	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
12		講義・演習	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
13		講義・演習	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
14		講義・演習	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
15		講義・演習	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
16		講義・演習	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
17		講義・演習	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
18		講義・演習	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
19		講義・演習	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
20		講義・演習	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
21		講義・演習	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
22		講義・演習	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
23		講義・演習	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
24		講義・演習	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
25		講義・演習	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
26		講義・演習	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
27		講義・演習	学習内容の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
28		講義・演習	学習内容の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
		本試験		
29		講義・演習	試験解説を行う。	これまでの総復習
30		講義・演習	カリキュラムの総まとめを行う。	これまでの総復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅱ 中枢神経疾患 (Central Nerve Disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	ヒトという動物のなかで最も特徴的な器官である「脳」を対象としているため難解に思われる中枢PTであるが、中枢性運動障害を改善するための根拠や、基本的な概念、必要な関連知識を交えて理解することで、理学療法評価の意義や目的を学生自身が考えることが可能となるような講義である。						
到達目標	中枢神経の基礎を理解し、中枢神経疾患に用いる理学療法評価の意義を説明できるようになる。 脳血管疾患の概要を理解し、説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	1) 定期試験100%(中間試験50%を含む。すべて筆記試験とする) 出席状況、授業内態度は評価の対象としない						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
2		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
3		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
4		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
5		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
6		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
7		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
8		講義	中枢神経系の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事
9		講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
10		講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
11		講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
12		講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
13		講義	脳画像と各種経路を説明できる	講義の復習を行う事
14		講義	脳画像と各種経路を説明できる	講義の復習を行う事
15		講義	脳卒中の回復メカニズムを説明できる	講義の復習を行う事
16		講義	脳卒中の回復メカニズムを説明できる	講義の復習を行う事
		中間試験		
17		講義	脳卒中の障害構造を説明できる	講義の復習を行う事
18		講義	脳卒中の障害構造を説明できる	講義の復習を行う事
19		講義	意識障害について説明できる	講義の復習を行う事
20		講義	運動麻痺について説明できる	講義の復習を行う事
21		講義	感覚障害について説明できる	講義の復習を行う事
22		講義	異常筋緊張について説明できる	講義の復習を行う事
23		講義	運動失調について説明できる	講義の復習を行う事
24		講義	身体失認・半側空間無視を説明できる	講義の復習を行う事
25		講義	失行、注意・遂行機能障害を説明できる	講義の復習を行う事
26		講義	姿勢定位・バランス障害を説明できる	講義の復習を行う事
27		講義	起居動作障害について説明できる	講義の復習を行う事
28		講義	歩行障害について説明できる	講義の復習を行う事
		本試験		
29		講義	試験解説	講義の復習を行う事
30		講義	試験解説	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】		医療情報科学研究所eds.病気が見える Vol7.MEDIC MEDIA.2017 吉尾雅春eds.標準理学療法学 神経理学療法学 第2版.2018.医学書院 野村巖eds.標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版.2020.医学書院		

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅳ 小児期疾患 (Childhood disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 金曜日
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	小児期疾患に対する理学療法評価・治療を学習する。						
到達目標	発達における小児の特性、各疾患の病態(禁忌や予後も含む)を理解できるようになる。 ①発達年齢を判定できる。 ②CPのタイプを判定できる。 ③各疾患の特徴から、評価の目的を明確にできる。 ④小児分野の国家試験問題を解くことができる。						
評価方法 (基準)	本試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	小児疾患の特徴を理解する。	人間発達学の復習
2		講義	正常発達を月齢ごとに理解する。原始反射、姿勢反射と運動の発達の関係を言える	人間発達学の復習
3		講義	解剖学的構造や数値を理解し、小児期疾患のリスク確認ができる。NICUでの理学療法について	人間発達学の復習
4		講義	発達の評価により、発達年齢を判定できる。運動学習の原則を理解できる。	人間発達学の復習
5		講義	小児期の関節運動や姿勢を理解できる。	解剖学・運動学の復習
6		講義	小児期の骨格と成人の骨格の比較ができる。	小児期の整形外科疾患の予習・復習
7		講義	整形外科疾患の病態を理解する。	脳性麻痺の予習・復習
8		講義	脳性麻痺のタイプの違いを理解する。	脳性麻痺の予習・復習
9		講義	脳性麻痺(痙直型)の評価と目的を説明できる。	脳性麻痺の予習・復習
10		講義	脳性麻痺(弛緩型)の評価と目的を説明できる。	脳性麻痺の予習・復習
11		講義	脳性麻痺の理学療法を考える。	脳性麻痺の予習・復習
12		講義	二分脊椎の病態を理解する。また、評価やその目的を説明できる。(1)	二分脊椎の復習
13		講義	二分脊椎の病態を理解する。また、評価やその目的を説明できる。(2)	二分脊椎の復習
14		講義	筋ジストロフィーの評価とその目的を説明できる。(1)	筋ジストロフィーの復習
15		講義	筋ジストロフィーの評価とその目的を説明できる。(2)	筋ジストロフィーの復習
		本試験		
		試験解説		
準備学習 時間外学習			発達過程や成人の解剖学・運動学を復習し、理解しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】			配布資料/理学療法学テキスト 小児理学療法学/人間発達学/小児科学/運動学/解剖学	

科目名 (英)	地域理学療法学 (Community-based Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 1,2限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法について、政治的背景を意識しながら学ぶ。 ・地域における理学療法士の役割について学ぶ。 ・在宅生活を支援していく上で必要な知識及び技術を学ぶ。 						
到達目標	<p>地域理学療法学の概念・背景・関連法規について理解し、説明できる。</p> <p>地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムについて理解し説明できる。</p> <p>地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。</p> <p>地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。</p>						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	地域理学療法とはなにか説明できる	授業内容の予習、復習
2		講義	地域における理学療法士の役割を説明できる	授業内容の予習、復習
3		講義	多職種連携の意図を説明できる	授業内容の予習、復習
4		講義	介護保険について説明できる	授業内容の予習、復習
5		講義	社会的背景を理解し、地域で求められている関わり方を説明できる	授業内容の予習、復習
6		講義	地域包括ケアシステムについて説明できる	授業内容の予習、復習
7		講義	認知症について説明できる	授業内容の予習、復習
8		講義	介護予防について説明できる	授業内容の予習、復習
9		講義	地域における対象者を説明できる	授業内容の予習、復習
10		講義	対象者に関わる制度について説明できる	授業内容の予習、復習
11		講義	対象者のADLの拡大について説明できる	授業内容の予習、復習
12		講義	対象者のQOLの向上について説明できる	授業内容の予習、復習
13		講義	行動変容について説明できる	授業内容の予習、復習
14		講義	社会参加の促進について説明できる	授業内容の予習、復習
		本試験		
15		講義	試験の解説	試験の復習
準備学習 時間外学習			教科書をもとに予習、教科書に目を通す。自分ならどうするか考える。	
【使用教科書・教材・参考書】			Crosslink理学療法学テキスト 地域理学療法学	

科目名 (英)	地域理学療法実習 (Practice of Community PT)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習 実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	地域の健康運動教室に参加して、理学療法評価学 I・II で学んだ知識をもとに、地域高齢者に対して検査測定や結果の解釈・フィードバック、運動プログラムの立案・実践まで行い理解を深める。						
到達目標	①高齢者や施設の方に対する接遇を学ぶ ②高齢者に対して安全に検査測定を行う事ができる ③高齢者が出来る運動プログラムを立案し、実践する事ができる						
評価方法 (基準)	①出席(50%) ②レポート(50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	検査測定の実技練習	検査測定の練習をする事
2		演習	検査測定の実技練習	検査測定の練習をする事
3		学外活動	亀岡運動教室 検査測定	検査測定の練習をする事
4		学外活動	亀岡運動教室 検査測定	検査測定の練習をする事
5		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
6		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
7		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
8		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
9		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
10		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
11		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
12		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
13		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
14		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
15		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
16		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
17		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
18		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
19		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
20		学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
21		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
22		演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
23		まとめ	これまでの学外活動の振り返り	
準備学習 時間外学習			検査測定、運動プログラムに関して各自事前練習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	国家試験演習Ⅱ (The prac of Qualifying Exam Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	理学療法士に必要な基礎知識(一般臨床医学、整形外科学、神経内科学等)を整理し、説明することができる。						
到達目標	①専門基礎分野の基礎学力を向上できる ②学習方法を確立できる ③学習習慣を確立できる						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	専門基礎分野(整形外科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
2		講義	専門基礎分野(整形外科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
3		講義	専門基礎分野(整形外科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
4		講義	専門基礎分野(整形外科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
5		講義	専門基礎分野(義肢装具学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
6		講義	専門基礎分野(義肢装具学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
7		講義	専門基礎分野(一般臨床医学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
8		講義	専門基礎分野(一般臨床医学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
9		講義	専門基礎分野(一般臨床医学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
10		講義	専門基礎分野(一般臨床医学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
11		講義	専門基礎分野(神経内科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
12		講義	専門基礎分野(神経内科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
13		講義	専門基礎分野(神経内科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
14		講義	専門基礎分野(神経内科学)過去問を反復し傾向を把握することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
		本試験		
15			試験解説	
準備学習 時間外学習			対策ノート作成を通じた、復習	
【使用教科書・教材・参考書】			国試の達人(理学療法編) 第23版	

科目名 (英)	PTスポーツ演習 I (PT Sports Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ動作に起因する外傷・傷害を説明することができる。 ・アスレチックリハビリテーションにおける予防的介入を理解できる。 ・スポーツ現場での応急処置について理解することができる。 						
到達目標	理学療法評価の知識を基に、アスリート・選手のスポーツ傷害予防について説明することができる。						
評価方法 (基準)	・出席点(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	総論①:競技動作に関わる外傷・傷害の特徴を理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
2		講義	総論②:競技動作に関わる外傷・傷害の特徴を理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
3		講義	各論①:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
4		講義	各論②:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
5		講義	各論③:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
6		講義	各論④:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
7		講義	各論⑤:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
8		講義	各論⑥:競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
9		講義	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (頭頸部・脊柱①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
10		演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (頭頸部・脊柱②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
11		演習	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (上肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
12		演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (上肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
13		演習	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (下肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
14		演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (下肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
		本試験		
15		演習	授業内容の総復習	プレゼン準備(割り振られた競技)
準備学習 時間外学習			上記に示した準備学習課題を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】			【参考書】 スポーツ理学療法学 改訂第2版.MEDICAL VIEW スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTスポーツ演習Ⅱ (PT Sports PracticeⅡ)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツパフォーマンス向上に必要な知識を理解できる。 ・スポーツ競技に関する知識を深め、アスリートへのリハビリテーション介入について、根拠のある説明ができる。 						
到達目標	理学療法治療の知識を基に、アスリート・選手パフォーマンス向上について説明することができる						
評価方法 (基準)	レポート100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	総論①:アスレチックリハビリテーションの介入手段について理解できる。		予習
2		講義	総論②:アスレチックリハビリテーションの介入手段について理解できる。		予習
3		講義	各論①:スポーツトレーニングの原理について説明できる。		予習
4		講義	各論②:スポーツトレーニングの原理について説明できる。		予習
5		講義	各論③:スポーツトレーニングの原理について説明できる。		予習
6		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①疾患・部位別の可動性改善について)		予習
7		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②疾患・部位別の可動性改善について)		予習
8		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③疾患・部位別の可動性改善について)		予習
9		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①疾患・部位別の筋力強化について)		予習
10		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②疾患・部位別の筋力強化について)		予習
11		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③疾患・部位別の筋力強化について)		予習
12		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)		予習
13		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)		予習
14		演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)		予習
15		演習	授業内容の総復習		レポートの修正を含む、まとめ作業
準備学習 時間外学習			授業の復習		
【使用教科書・教材・参考書】			【参考書】 アスレチックリハビリテーションガイド 第2版 文光堂 スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級		

科目名 (英)	PTマネジメント演習 I (PT Management Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	まず日本の医療がどのように運営されているかマクロ的な視点で解説する。具体的には、医療保険をはじめとした日本の医療制度を開説する。その上で、個々の医療施設がどのように運営され、どのような問題に取り組んでいるか説明する。したがって、授業の到達目標は以下のものを想定している。						
到達目標	①日本の医療について具体的なイメージを持てる。 ②将来就業する可能性がある医療施設がどのように運営されているか理解できる。 ③現在、ミクロ・マクロ両面で医療にはどのような問題が起きているか理解できる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	高齢化が進む日本の状況を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
2		講義	社会医学の立場から日本の医療制度を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
3		講義	病院とはどのようなところなのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
4		講義	日本の医療保険制度の成り立ちと仕組みについて説明できる	講義の復習/発表資料の準備
5		講義	他国の制度と比較し、日本の制度の理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
6		講義	介護保険成立の歴史、保険制度の仕組みについて説明できる	講義の復習/発表資料の準備
7		講義	近年医療制度がどのように改革されてきたか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
8		講義	医師不足、看護師不足について説明できる	講義の復習/発表資料の準備
9		講義	医療機関はどのようにしてお金を得ているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
10		講義	実際の病院はどのような組織になっているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
11		講義	実際の病院はどのような組織になっているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
12		講義	医療機関で働く者はどのように管理されているか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
13		講義	電子カルテの導入の影響や個人情報について説明できる	講義の復習/発表資料の準備
14		講義	医療の質をどのように上げるかの取り組み事例を紹介できる	講義の復習/発表資料の準備
15		講義	事故をどのように防いでいくのか、その取り組み事例を紹介できる	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTマネジメント演習 II (PT Management Practice II)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に関わる老年期，老人の障害構造の特徴を理解する ・フレイルや廃用症候群，サルコペニア，ロコモティブシンドロームの概念，相違等を理解する ・老年期の生活や社会的特徴を理解する(見通す力) 						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に，フレイル(介護予防)について説明することができる。						
評価方法 (基準)	レジュメ発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義	戦後から2000年までの医療・介護情勢の変化を理解できる		講義の復習		
2		講義	これまでの診療・介護報酬改定の要点を説明できる		講義の復習		
3		講義	地域包括ケアシステムの概要を説明できる		講義の復習		
4		講義	地域包括ケアシステムの概要を説明できる		講義の復習		
5		講義	理学療法士のロールモデルの変遷を説明できる		講義の復習		
6		講義	キャリアとは何か説明できる		講義の復習		
7		講義	職場におけるキャリアマネジメントの重要性を説明できる		講義の復習		
8		講義	事例から、理学療法士として多様なキャリアがあることを理解できる		講義の復習		
9		講義	自身の自己概念について課題を通して理解できる		講義の復習		
10		講義	自身の自己概念について課題を通して理解できる		講義の復習		
11		講義	自身のパーソナリティタイプを理解し、キャリアクラスターとのマッチングの相性		講義の復習		
12		講義	自身のパーソナリティタイプを理解し、キャリアクラスターとのマッチングの相性		講義の復習		
13		講義	これまでの演習の結果を発表できる		講義の復習		
14		講義	これまでの演習の結果を発表できる		講義の復習		
15		講義	これまでの演習の結果を発表できる		講義の復習		
準備学習 時間外学習			講義の復習				
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布				

科目名 (英)	PTメディカル演習 I (PT Medical Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	チーム医療の一員として他職種連携を実践するにあたり、まず各科における専門性を理解する。 コメディカルに関わる他職種の業務内容をそれぞれ理解し、これから修得すべき理学療法はどのような意味を持つかを認識を深める。						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に、高齢者・障害者のリハビリテーションについて説明することができる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション	講義の復習/発表資料の準備
2		講義	他己紹介①を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
3		講義	他己紹介②を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
4		講義	チーム医療における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
5		講義	チーム医療における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
6		講義	チーム医療における看護師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
7		講義	チーム医療における理学療法士の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
8		講義	チーム医療における医師の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
9		講義	臨床現場における理学療法士業務とは①を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
10		講義	臨床現場における理学療法士業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
11		講義	臨床現場における他職種の業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
12		講義	臨床現場における医師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
13		講義	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
14		講義	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
15		講義	1～14講までのまとめ	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTメディカル演習 II (PT Medical Practice II)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に関わる老年期，老人の障害構造の特徴を理解する ・フレイルや廃用症候群，サルコペニア，ロコモティブシンドロームの概念，相違等を理解する ・老年期の生活や社会的特徴を理解する(見通す力) 						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に，フレイル(介護予防)について説明することができる。						
評価方法 (基準)	レジュメ発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義	オリエンテーション		講義の復習		
2		講義	老化，老人，老年症候群について述べる ことができる		講義の復習		
3		講義	廃用症候群について述べる ことができる		講義の復習		
4		講義	フレイルに就て述べる ことができる		講義の復習		
5		講義	サルコペニアについて述べる ことができる①		講義の復習		
6		講義	サルコペニアについて述べる ことができる②		講義の復習		
7		講義	ロコモティブシンドローム について述べる ことができる		講義の復習		
8		講義	老年期に特有の整形疾患 に関して述べる ことができる①		講義の復習		
9		講義	老年期に特有の整形疾患 に関して述べる ことができる②		講義の復習		
10		講義	認知症について述べる ことができる①		講義の復習		
11		講義	認知症について述べる ことができる②		講義の復習		
12		講義	知能低下についての述べる ことができる		講義の復習		
13		講義	老年期障害についての まとめ①		講義の復習		
14		講義	老年期障害についての まとめ②		講義の復習		
15		講義	1～14講までのまとめ		講義の復習		
準備学習 時間外学習			講義の復習				
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布				